

# 未来への期待

濱田 鉄心

今年には太平洋戦争終戦七十周年を迎えた一つの大きな節目の年となる。敗戦後の日本は想像を絶する廃墟と虚無感、飢え、絶望から出発したが戦後日本の経済社会は奇跡とも言える目覚ましい復興を遂げた。戦勝国であった欧米諸国は日本の国土を徹底的に破壊したが絶対に破壊できなかったものがある。それは紛れもなく日本人魂であった。その堅忍不拔の魂と勤勉さ、そしてひたむきな努力の成果が今日の繁栄をもたらしたのである。しかし、その膨大な社会変化の中には得るものも多くあったとはいえ、失ったものも計り知れない。この節目の時代に新たな我が国の歴史観を考察する事は必要であり、避けては歩めない未来へのチャレンジである。いつの時代においても国家や社会、個人も何らかの決断に迫られる岐路に常に直面している事は間違いない。現在も未来も国内や世界からテロ行為が消滅することはないと歴史が証明している。それよりもテロがもたらす本質的な目的、即ち恐怖に屈服させることへの狙いに対してくじけない強靱不拔な信念を持った人格を青少年から築き上げる事が急務である。さらに若い世代が次の時代を担い国際人として活躍するためには外国語や技術力が優秀であることはその条件として考えられる。しかし何よりも日本人としての誇りある自信に溢れた自己存在の意義、即ち本来の確固たる個人アイデンティティを持つことの方がはるかに大事である。これは

与えられるものではなく自らが考え苦学し心技体を鍛えて初めて養成できることである。この人格形成プロセスは出来るだけ早い青少年の時代にされるべきである。本会が競技スポーツではなくして伝統武道を通じてその社会教育の過程にどのような貢献が出来るか、これは大きな現実的課題でもあり期待でもある。

本会が法人化し社会的な資格を得て今年で三年目になる。今年日本武徳会の歴史は創立百二十周年を迎え、その歴史と伝統の重みは一段と増している。本会が平成二十七年から次の数年間の間に立つ大きな岐路は我々会員全員が力を合わせて立ち向かっていかなければならない。その選択の原点は常に襲古還新の哲理であると思う。問題は還新の中核と中身である。そしてその中身をどのように実践するかであるとされる。依って、具体的にその対策をじっくりと熟慮検討していただき、会員一人一人がそれに対して少しでも貢献していただく事が、本会の未来的発展に繋がると確信する。最大の構造的な問題は会員数がこの十年間で自然消滅のために減り続けて来たということである。我々はここで果敢な努力をし、未来的な目標として現在の会員数を二倍にすることを掲げ、全団団長・支部の指導力によって総力をつける事が大事である。青少年会員も一段と増加させねばならない事は大きな課題である。さらに本会の重要な武道指導者である武道執行専門委員各位には大きな期待が寄せられている。本会の未来的発展の為にまず総合的な組織体力を促進させる事が最大の課題であると考える。